

5. 遠隔情報保障

一般的に「遠隔〇〇」といった場合、遠く離れたところから電波や電気などを使って物を操作することを指しますが、遠隔情報保障というのもまさにそのようなもので、インターネット回線を使って離れた場所から情報保障を行うものです。

この遠隔による情報保障にはさまざまなメリットがあります。例えば、文字通訳者が確保できていない地域でも、遠隔であれば場所に依存することなく文字通訳を行うことができます。また利用者にとっても、近くに文字通訳者を感じることなく情報保障を受けることができます。このように遠隔による情報保障は、地域や通訳者の人数による格差を軽減し、利用者が必要な支援を受けることを可能にします。

(1) 遠隔情報保障で留意すること

離れた場所にいる人に情報保障する形態はいくつかあります。どの形態でも利用者が取り残されないように全員が配慮する必要があります。

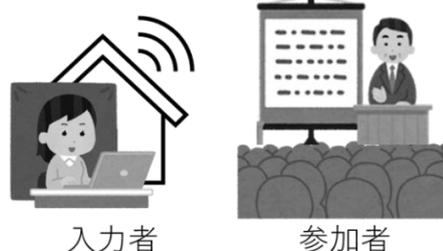
- 参加者の一部がリモート

入力者は話者と同じ場所（現地）にいても利用者の一部がオンラインで参加している場合。文字通訳のスクリーンを映すだけでは不十分なことが多いので工夫が必要です。



- 入力者だけがリモート

話者と利用者は同じ場所にいるけれども、入力者は離れた場所にいる場合。会場の音声や映像を送ってもらい、文字情報を利用者に届けます。



- 全員がリモート

話者、入力者、利用者の全員が同じ場所におらず、オンラインのみでつながっている状態です。情報保障がついていることに参加者全員が配慮する必要があります。



いずれにしても、入力者と利用者では見えているものが違います。部屋の様子、話者の様子など、同じ場所にいれば共有しているはずの情報は非常に限られます。利用者はまさに「文字だけが頼り」という状況になりますから、不用意な要約は避けるべきでしょう。

利用者が今、どういう状況なのかを常に想像し、取り残されることのないように留意することが大切です。

- 利用者とは場を共有しておらず、お互い見えているものが違う
- 限られた情報しか伝わらないので不用意な要約はしない
- 利用者の状況を常に想像し、取り残されないように留意する

(2) 遠隔情報保障システム

オンライン会議システムなどで音声と映像を送ることはできますが、文字通訳の送り方（画面の映し方）はさまざまな工夫がありえます。利用者にとって負担なく情報を受け取れるよう、オンライン会議システムの機能を使ったり、遠隔情報保障システムを活用したりするとよいでしょう。

IPtalk をインターネットにつないで使う方法もありますが、ここではその他のシステムを紹介します。

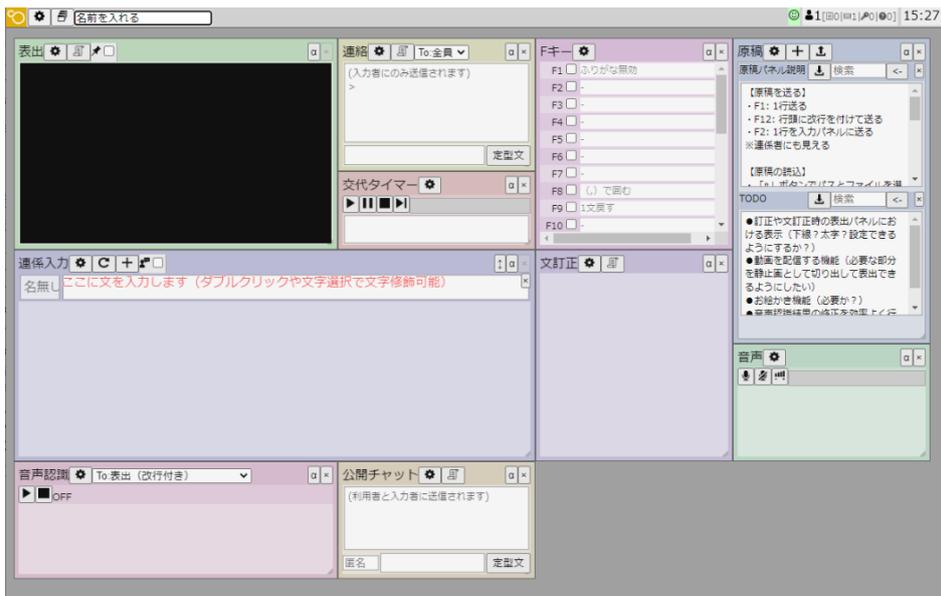
① captiOnline（キャプションライン）

「captiOnline」提供元：筑波技術大学 若月大輔氏
<https://captionline.org/>

captiOnline はウェブブラウザ上で動作する遠隔情報保障システムです。専用の URL をクリックしてユーザー名、パスワードを入力すれば誰でも利用できます。入力者ページには連係入力ができるほか、前ロールや連絡窓など便利な機能がそろっています。

利用者は利用者ページから閲覧します。Windows や Mac などのコンピュータ端末はもちろん、iOS や Android 端末のスマートフォン・タブレットでも利用することができます。

利用を希望する団体はホームページから連絡をとり専用 URL を提供してもらいます。



captiOnline 画面（入力者ページ）

② T-TAC Caption（ティータックキャプション）

「T-TAC Caption」提供元：筑波技術大学 三好茂樹氏

<https://www.pepnet-j.org/contents/archives/144>

T-TAC Caption は主に教育機関での情報保障に使われている遠隔情報保障システムです。captiOnline と同様、ウェブブラウザ上で動作します。パソコン、スマートフォン、タブレットなどのデバイスや OS は問いません。専用の URL をクリックしてユーザー名、パスワードを入力すれば利用できます。

利用には教育機関や支援団体からの利用申請が必要です。個人では申請できません。



T-TAC Caption 画面